



全国学校体育功労者賞を受賞して

玉名市立玉名中学校 校長 杉本 三郎

コロナ禍の中、皆様が大変な中に、全国学校体育功労者賞という大変名誉ある賞をいただき身に余る光栄であり、恐縮に堪えません。このような私をこれまで支えていただいた皆様方に心より感謝申し上げます。

私の教職人生スタートは、荒尾支援学校の講師でした。生まれながらに、障がいを抱えた生徒が、一生懸命に動かない手足を動かし、応えよう、伝えようとする姿が心に焼き付きました。そして、新採として益城町立益城中学校に赴任。3年間何もわからないままにがむしやりに先輩方の後を追いついた3年間でした。その後、菊水町立菊水中学校に赴任。先生方の話を前のめりになって話を聞く生徒の姿がありました。授業だけでなく質の高い行事の取り組み、県・九州トップクラスの部活動、そして町民が誇りに思う学校づくりがなされていました。それまで、先輩方の後ろをついてばかりだった私が、今度は自分が学校を支えていかねばという気持ちになったのも初めてでした。9年間お世話になり、その後は隣の玉名市立玉陵中学校。その頃生徒指導面で問題行動の多い非常に厳しい状態がありました。しかし、中体連陸上・水泳大会等の取り組みを通じて生徒たちは自信を持ち、体育の取り組みで学校まで変わると学ばせていただきました。玉陵中でも9年間お世話になり、四校目は玉名中学校でした。800名の生徒を動かす最もエネルギーが必要な学校であり、初めての中体連理事長を経験させていただきました。大会の運営をしながら自校の生徒の大会への練習も並行して行う時期でした。郡市中体連大会の諸準備や県中体連の会議、関係団体との連絡等何か忘れていないかと考える毎日でした。諸準備と生徒の指導に毎日激しく取り組む中で、声が出なくなり目が見えなくなり、病気で休み周りにご迷惑をかけたこともありました。しかし、その頃から全国中体連大会へも初めて出場させていただき、全国の中学生の競技レベルの高さに意識を変えさせられました。そして、8年間の玉名中の後、平成二十五年度から教頭として玉南中へ赴任、玉名荒尾中体連の副会長として、平成二十八年度から荒尾第四中学校の校長として、平成二十九年度から玉名荒尾中体連会長として、熊本県中体連総合体育大会玉名荒尾大会に関わらせていただきました。平成三十年度には県中体連副会長として、岩下会長、中島会長のもと一緒に県の運営にかかわらせていただき、多くの団体との連絡調整や大会の運営等、いかに苦勞をされて、大きな責任を負って県の運営をされているのか学ばせていただきました。

私は38年の教職生活の中で、体育人として多くのことを学ばせていただきました。指導面では、熊本県の体育の先輩方のこだわりのある指導を目標に取り組み、体育がいかに生徒に達成感と自信を与え、学校全体に活気をもたらすのかを。そして、熊本県の子どもたちの純粋さが全国に通用する強みであることも確信を持ちました。運営に関わらせていただく中では、大会を行えること自体に、いかに感謝の気持ちをもって取り組まなければならないかを、大会を支えていただいた皆様から学ばせていただきました。今後、子供たちの未来を切り拓く力を育てるためには、体育がより必要であると思います。最後になりましたが、熊本県中体連・中体研の益々の発展と関係の先生方のご健勝とご活躍を祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。